

総合的な学習の時間における情報機器の活用

桜ヶ丘小学校

1 単元名 「自分自身や周りを見つめて」 ...今、自分たちに出来ること... 第6学年

2 単元の目標

- ・福祉にかかわる体験をもとに、自ら課題を見つけ、見通しをもって活動することができる。
- ・伝え合う活動を通して、自らの考えを深め、社会の様々な事象に目を向けることができる。
- ・進んで地域に出て、他の人と関わり合うことでコミュニケーション能力を育てる。

3 指導計画の概要

	活動内容	情報機器
ふれる・つかむ (10時間)	・オリエンテーリング ・福祉の活動マップ作り ・車椅子体験 ・課題集め ・個人で課題を見つける ・夏休みに向けてグループごとの計画を立てる	・デジタルカメラ ・インターネット、ファックス、電話などによる情報収集
調べる・つなぐ (20時間)	・調べる ・情報の整理	・デジタルカメラ・ビデオカメラ ・パソコン(スタディーノート)
まとめる (20時間)	・まとめる ・発表する ・ディスカッション ・記録や感想を残す	・パソコン(パワーポイント) ・パソコン・スタディーノート ・プロジェクター

4 情報機器活用の意図・情報教育の視点

総合的な学習の時間ねらいは、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 学び方や考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができる力を育てる。 各教科などの学習で得た個々の基礎・基本的な知識を結びつけ、総合的に働かせることができる力を育成することである。ねらいの達成のために情報機器を積極的に活用することでより大きな効果が期待される。

この単元では、情報収集のための情報機器活用としてパソコン(インターネット)・電話・ファックス、記録のための情報機器活用としてパソコン(スタディーノート)・デジタルカメラ・ビデオカメラ、発表のための情報機器活用としてパソコン(パワーポイント)・プロジェクター・ビデオを活用した。今までの情報教育の経験を生かし、どの機器を選択して活用していくかを児童一人一人が考えることも情報教育の視点と考える。そこで、課題別に学年全体で28グループを編成し、自らの判断で活用する機器を選択させた。

5 成果と課題

総合的な学習の時間は体験を重視する学習を行うものである。自らの課題を解決するために、様々な情報を集めることのできるインターネットの活用は効果的であった。それらの情報を手がかりにして計画を立てることができた。その反面、インターネットに頼りすぎ、前に進めないグループもあった。

自分の足で調べたことを記録することにも情報機器の活用は効果的であった。簡単に正確に記録を取ることができ、それらの記録は発表のための材料として役に立っていた。

発表のために情報機器を活用したグループは多くはなかったが、簡単に編集できることもあり、教師の支援を受け、見やすく視覚に訴える発表ができ、聞く側にも理解しやすかったようだ。しかし、プロジェクターの台数に制約があり問題点もあった。

今後、スタディノート（学習用グループウェア）などを活用した電子ポートフォリオづくりを試みてみたい。

6 授業実践の概要

発表は 28 グループが前半後半に分かれて各会場で発表した。

発表当日のプログラムの一部							
6 年							
期日 平成13年12月 7日(金)							
場所 第一校舎 3・4階							
テーマ 「自分自身や周りを見つめて」..今 自分たちに出来ること..							
第3・4校時 午前11時50分～12時20分							
予定表							
時間	場所	コンピュータ室	コンピュータ準備室	6年2組	4階廊下中央	6年3組	フレンドホール 6年3組前
《前半》 10:50~11:25		1班 「車イスの生活」	5班 「車いすに乗っている人ができるスポーツ」	3班 「車イスの進化」		10班 「車いすの危険な場所」 (駅～仙元山)	8班 「車いすの種類と構造」
《後半》 11:45~12:20		2班 「車イスの施設設備」	6班 「車いすでする人のスポーツ」	4班 「スポーツ用の車いす」	7班 「車いすの種類と構造」	11班 「車いすの危険な場所」 (家の周り)	9班 「車いすの危険な場所」 (駅周辺)
						12班 「桜ヶ丘の危ない道さがし」	



発表画面(パワーポイント)



発表風景